



## 創刊の辞

教職大学院の専任教員や院生間の情報交換は、これまでメーリングリストで行ってきています。メーリングリストは日々の意思疎通、情報交換には便利ですが、記録として残しにくく、また改まった問題提起などもできにくいところがあります。そこでこの通信を創刊することとしたわけですが、この通信はそのためだけでなく、2016年度に立ち上がった教職大学院の状況について、教育学研究科に関わるすべての教職員の方々にお知らせすることも重要な目的となります。この情報をHP等に掲載することで、さらに秋田大学全体へ、そして秋田大学教職大学院への進学を考えている学部学生や現職教員の方々にも、教職大学院の様子を知らせることに役立つでしょう。すでに教育学研究科を修了して、特に教育関係の職に就いている人、これから教職大学院を修了して教育の現場などで活躍する修了生の人にとっても、母校の状況を知り、何かの折に訪れてもらい、相談・情報交換することや、共同の教育・研究の取り組みを行

うこと、さらに様々な形で教職大学院の教育に協力してもらうことも可能になるかもしれません。そのような可能性を持ったものとして、この通信をできるだけ長く継続していきたいものです。

この通信では、

- ・教員や院生のコラム
- ・教員や院生の自己紹介 or インタビュー
- ・修了生の近況・院生時代の思い出等
- ・授業や施設、行事の紹介・報告

などを内容として予定しています。院生の広報班が中心となって編集を進める予定です。寄稿など、みなさんのご協力をお願いいたします。

なお、題字の左のロゴは、旭水会（学部の同窓会）及び学部の正式なマークとなっています。笠原幸生教授の制作により、1988年に制定されました。大輪の旭日を背にそびえ立つ太平の峰、ここに源をもつ旭川と太平川を表したもので、旭水会と母校の限りない発展を併せ願ったものであるとされています。

## 「曉鐘の音」(かねのね)について

教育文化学部の前身の一つである秋田青年師範学校の同窓会の名称が「曉鐘（ぎょうしょう）会」であったことにちなんでいます。曉鐘は曉（あかつき）の鐘で、夜明けを知らせる鐘のことです。さらに、新しい時代の到来を告げる鐘であり、また、漫然と暮らす人々の意識を呼び覚ます鐘でもあります。

陽明学で知られる王陽明が48歳、1519年頃に作った「睡起偶成（すいきぐうせい）」と題する詩に曉鐘の言葉が出てきます。

|         |         |
|---------|---------|
| 四十余年睡夢中 | 起向高楼撞曉鐘 |
| 而今醒眼始朦朧 | 尚多昏睡正懵懵 |
| 不知日已過亭午 | 縱令日暮醒猶得 |
| 起向高楼撞曉鐘 | 不信人間耳盡聾 |

四十余年 睡夢の中  
 しかして今醒眼 始めて朦朧  
 知らず 日すでに亭午を過ぎしを  
 起ちて 高楼に向かい曉鐘を撞く  
 起ちて 高楼に向かい曉鐘を撞く  
 なお多く昏睡 まさにぼうぼうたり  
 たとえ日暮るも 醒なお得ん  
 信ぜず 人間の耳 ことごとく聾なるを

四十数年、まるで夢を見ていたようだ  
 今やっと目が覚めたが、ぼんやりとしている  
 もうお昼を過ぎていることに気づかなかった  
 起きて高楼に向かい、夜明けの鐘を撞く  
 起きて高楼に向かい、夜明けの鐘を撞く  
 まだ多くの人々は眠りこけている  
 たとえ日が暮れても目覚める者は必ずいる  
 人々の耳が聞こえないことはないはずだ

平均寿命が60歳くらいの時代でしょうから、40歳、50歳といえば相当な高齢です。それでも目覚めて道を探す、新たな取り組みを行うことに遅いということはない、そして、人々の啓蒙のためにあきらめず信じて一生懸命努力しようということでしょう。

秋田と陽明学のつながりで言えば、吉田松陰にも影響を与えた陽明学者で尊皇開国論者の狩野良知（りょうち、1829-1906、秋田（大館）藩士）がいます。彼は藩校明德館で学び、千秋公園の名付け親でもあるそうです。長男の元吉は自由民権活動家で、次男の亨吉は第一高等学校長、京都帝国大学文科大学初代学長（今の文学部長）でした。

## 全県指導主事等連絡協議会に参加して

木 村 司（学校マネジメントコース現職 1 年次）

4 月 21、22 の両日、全県指導主事等連絡協議会に参加させていただきました。本大学院からは現職教員 10 名が参加し、それぞれの専門や研究テーマ等から教科・領域部会や課題別部会に参加しました。

協議会の趣旨が、「学校教育指導の充実を期すために、本県の教育行政施策の重点等について理解を深めるとともに、今年度、各教科等で取り組むべき課題を明確にし、その改善のための具体的な共通実践事項及び成果の把握の仕方について協議することで、校種間を貫く指導体制の確立を図る。特に、各校において、“「問い」を発する子ども”の育成を目指した教育活動の展開を図ることに焦点を当てた協議を行い、今後の学校訪問指導や研修、事業に生かす。」であることから、県の教科・領域、課題別の中核となる考えがみえ、そうした趣旨のもと学校訪問が行われていたり、教育現場での諸活動との関連が図られていたりすることに気付く良い機会であったと感じています。

特に、“校種間を貫く指導体制の確立”“「問い」を発する子どもの育成”という点については、学校経営や授業改善を含む研修体制、カリキュラム開発といった面においても根幹となり得る方向性であると認識したところでした。

米田県教育長のお話は、アクティブ・ラーニングにつながるものとしての秋田型の探究型授業の推進を、主体的に学び、表現し、小中高を貫くものとしての、“問いを発する子どもの育成”を、ふるさと教育を基盤に問題解決型の学習（テーマ発問型の授業）を取り入れながら道徳の教科化への対応を、秋田の強みである県教委、市町村委、各校の連携・課題共有をより一層進めてほしいとの内容でした。前記の協議会趣旨とのつながりがはっきりとみられました。

その他、いじめへの対応に関しての文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室からの講話もあり、継続的な苦痛＝いじめという考え方は古いものであり、今後一層職員間での情報共有が求められ、児童生徒の言葉や行動を常に話題にして「いじめを許さない。」というスタンスを貫いていく必要性を再認識しました。

協議会そのものの内容は、三つの事務所を中心にした昨年度特徴的だったことや今年度の取組に関する協議が主なものでしたが、我々にも現場の現状や県教委に求めるものといった内容で発言する場が設定され、非常に内容の詰まった二日間でした。

## 教職大学院に入学して

辻 明日香（発達教育・特別支援教育コース学卒 1 年次）

教職大学院に入学して前期があつという間に過ぎていきました。何が山場だったかと言われるとずっと山場で中々地面に降りてこれなかったと感じるほどに日々盛りだくさんでした。

附属四校園をまわる実習は数か月にわたり、毎週火曜日に行われました。それぞれの学校園で大事にしているもの、子どもたちの姿などを勉強させていただきました。私は附属中学校と附属幼稚園に長時間訪問したことが無かったため、子どもたちが日々どのような生活リズムで過ごしているのかを切り取って観察でき、「自分だったらどう支援・指導するか」など自分の視点や行動に還元しながら勉強させていただきました。

授業は、自分が何も知らない空っぽの状態な人間だったのだなというショックを受けるところから始まりました。前期を過ごす中で多少は中身が詰められたのでしょうか。自分が教壇に立った時、子どもと対峙した時、組織に配属された時…学部生だった時よりも具体的なビジョンを組み立てる時の材料になる毎日です。きっと後期からも自分

の中に中身を詰めていく作業が待っていることでしょう。

学部卒の学生はいわずもがなですが、現職の先生方も含めて院生のみなさんはとても個性的です。空っぽの私に中身を詰める手伝いをしてくれます。現職の先生ならではの知識や経験、他の大学や学科、秋田以外の地域で見てきたことなど、小さい囲いの中では得られないことを知ることができました。いかに自分が井の中の蛙だったのかを知り恥ずかしくなるほどです。切磋琢磨とは言いますが、私の場合は周囲の人を見て勉強していると言った方があっていると思います。

前期はあつという間に過ぎていきました。恐らく後期もそして来年も過ぎ去っていきます。「光陰矢のごとし」と言われるように、矢のように過ぎ去っていく時間の中で自分がやるべきこと、見つけなければならないこと、得なければならないことは何かをしっかりと見極め、残された許された時間を過ごしたいと思います。



## 教職大学院一期生のみなさんへの期待

佐藤修司（教職実践専攻長）

学部卒院生の方も、現職教員院生の方もいろいろな思いを胸に、今年度立ち上がった秋田大学教職大学院に入学されたことと思います。学部卒院生の人にとっては、採用試験を突破して教員になること、学部卒で教員（講師も含めて）になる人に比べてより高い実践知を身につけることが目標でしょう。現職教員院生の人にとっては、忙しすぎる現場から少なくとも1年間は離れて、じっくりと考える時間が持てること、現場にいただけでは知ることのできなかった知見を得て、学校のミドルリーダー、リーダーとしての実践知を得ることが目標でしょう。

### 「待ちの姿勢ではなく、常に攻めの姿勢で臨む」

入学後のオリエンテーションでも言いましたが、教職大学院が自分に何かをしてくれるだろう、与えてくれるだろう、という受け身の姿勢、待ちの姿勢であってははいけません。ケネディが大統領就任演説で、「国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい。」と述べていることを知っているでしょうか。これになぞらえて、自分が教職大学院のために何ができるかを考える、くらの意気込みが欲しいところです。

もちろん、教職大学院のためにみなさんが「奉仕」しなければならないわけではありません。ケネディも、国民に国への奉仕を求めたわけではなく、人権や自由を侵害する「圧政・貧困・疫病・戦争」に対して、国民全員が人任せや国任せにせず、国とともに立ち向かうことを求めていたのです。

みなさんは入学金や授業料を払っているわけですので、その対価以上のサービスを求めることは当然のことかもしれません。ここで考えなければならぬのは教育の特殊性です。教育は通常の商品と異なり、学習者と教育者の共同作業によって成立するもので、その効果は学習者と教育者の意欲・姿勢によって大きく異なり、時には全くマイナスとなる場合さえあります。教育だけでなく、対人関係の職業はおおよそ共通するでしょう。

自分を成長させよう、変えていこうとする積極性は、教職として、また人間として一生にわたり必要なものです。攻めの姿勢を持ち、どのような逆境の中でもそこから学ぶ意欲を持つ。何か問題があるときに、不平・不満を言っているだけでは、現状は変わりません。不平・不満を要求に高めていくこと、マイナスからプラスへ、破壊的感情から建設的な感情へ変えることで、目標と計画が生まれます。

学校現場では以前より研修の機会が増えているわけですが、「やらされ感」でやっている、学びの意欲も効果も大きく低下します。すべての研

修の中身に意味・意義があるとは限りませんが、何かを学び取ろうとする主体的な意欲を常に持ち、同時に研修をよいものにしていこうとする建設的意志を持つことが重要です。

### 「自分に積極的に投資する」

消費は、一時的な楽しみだけでそこでなくなってしまうものですが、投資は将来の楽しみのために、今の楽しみを我慢するものです。投資自体が楽しめるようになればそれにこしたことはありません。

今ある資源をすべて投資に回すことは現実的ではないので、消費と投資のバランスを考えて、今の収入・資源の中の可能な限り多くの部分を投資に回すような発想をします。資源の最たるものはお金でしょう。有益な本や雑誌を買って読む、研究会や学会に旅費・参加費を払ってでも参加する。かかった費用の分は元を取ろうとする食欲さも生まれます。経済的に困難な場合もありますが、何らかの打開策を見つける努力をします。有益なものを探し出そうとする積極性を養ってください。

時間も資源として重要です。学校現場とは違って、大学院は時間の余裕がまだある方なので、その時間を投資のために使います。時間を無駄に使わず、投資に回すこと、しかも意欲を持って取り組むことで同じ時間でより多くの成果をあげることが可能になります。資源には、自らの能力や健康も入るでしょう。それがなければ成功はありません。また、人間関係も重要です。家族や友人の支えなしには、投資の継続は難しくなります。真の意味でリフレッシュする、家族や友人と交流するのであれば、それは消費ではなく将来のための投資になります。

投資は収益を上げるために行います。収益としては、将来の収入や地位のアップが一番目に見えやすいでしょう。ただ、それに拘泥するのでは自らの私的利益のために学んでいることになりません。教職としては、自分自身の成長、そして何より子どもたちや保護者、地域、学校の成長・発展を最も重要な収益ととらえたいところです。投資の結果は、自らの能力や人間関係などの資本として蓄積されていきます。経済的な資本に比べると、失われにくく、安定した資本・資産と言えます。1960年代には人的資本論、教育投資論が盛んに論じられていましたので、興味のある方は調べてみてください。（投資や収益などの使用法は学問的に見ればだいぶ荒っぽいものです。）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

教職大学院での学びがみなさんにとって貴重なものとなるよう、教員も努力しますが、みなさんも自らの学びの充実に向けて力を尽くされることを期待しています。

## 施設について

### ○4号館111教室（旧白神ルーム）紹介



この部屋は以前白神ルームと称されていましたが、今年4月からは主に教職大学院の授業で使用される教室となりました。これまで土足禁止でしたが、冬に床が冷たすぎることもあって、土足可としました。現在は教職実践専攻及び心理教育実践専攻の院生用のコピー機、印刷機がこの教室に設置されています。来年度は別室に移動する予定です。授業の空き時間には院生の自主的な学習会の場ともなっています。

## 各種組織について

### ○各班の構成について

|    |     |       |       |      |        |   |
|----|-----|-------|-------|------|--------|---|
| 総務 |     | 佐藤孝成  |       |      | マネジメント | 学生協議会学生委員を兼任／教員との連絡／院生全員の連絡調整／  |
|    | 副班長 | 門脇 恵  |       |      | 現職     |   |
|    | 班長  | 渡辺太郎  |       |      | スタス    |   |
| 広報 |     | 木村 司  |       |      | マネジメント | HP(ブログ、SNS等)の記事作成／イベント・授業等の取材、写真撮影／同窓会－HP上でアドレス・勤務先等を登録してもらい、メルマガを送付／ |
|    | 副班長 | 佐々木勝利 | 本多由香  |      | 現職     |   |
|    | 班長  | 辻明日香  | 菅原郁也  | 菅原美智 | スタス    |   |
| 企画 |     | 伊藤 智  |       |      | マネジメント | レセプション・交流会等の企画実施／大学祭等での発表／他大学との交流／                                    |
|    | 副班長 | 富樫朋哉  |       |      | 現職     |   |
|    | 班長  | 松本深鈴  | 岩澤郷子  | 岸陽弘  | スタス    |   |
| 研究 |     | 浅野博之  |       |      | マネジメント | 図書・資料の整理／研究会等の実施／授業等での要望の集約等／   |
|    | 副班長 | 三浦益子  | 児玉信子  |      | 現職     |   |
|    | 班長  | 高橋渉   | 野坂奨   | 鎌田貴文 | スタス    |   |
| 厚生 | 副班長 | 児玉信子  | 本多由香  |      | 現職     | 院生室・4-111の整備・清掃の指示／院生費(コーヒー代等)の管理／                                    |
|    | 班長  | 柴田省吾  | 富樫啓太郎 |      | スタス    |   |

スタスは6月交替、現職院生は4月交替

活動内容は暫定的なものです。状況を見ながら、やることを決めていきます。

### ○教師力向上協議会教職大学院部会・省察実習専門部会の構成について

#### 教職大学院部会

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1 教職実践専攻長         | 佐藤 修司 |
| 2 秋田県教育庁義務教育課長    | 佐藤 昭洋 |
| 3 秋田市教育委員会学校教育課長  | 加賀谷 亨 |
| 4 秋田県総合教育センター副所長  | 菅原 勉  |
| 5 学校マネジメントコース長    | 神居 隆  |
| 6 カリキュラム・授業開発コース長 | 田仲 誠祐 |
| 7 発達教育・特別支援教育コース長 | 藤井 慶博 |

#### 省察実習専門部会

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| 1 省察実習部会長           | 田仲 誠祐  |
| 2 秋田県教育庁総務課政策企画・広報班 |        |
| 副主幹(兼)企画監           | 三浦 亨   |
| 3 秋田市教委学校教育課課長補佐    | 鈴木 太   |
| 4 秋田市立牛島小学校校長       | 八柳 知之  |
| 5 附属中学校副校長          | 丸山 琢磨  |
| 6 教職実践専攻准教授         | 関谷 美佳子 |
| 7 教職実践専攻准教授         | 千葉 圭子  |

教師力向上協議会は秋田県教育委員会と秋田市教育委員会と教育文化学部との連携を深め、秋田県の教員の養成・採用・研修を一体的に向上させる目的で作られている組織です。今回、その下に教職大学院部会が設置され、さらにその下に省察実習専門部会が設置されました。それぞれ、教職大学院の運営と、教職大学院における実習科目・省察科目の運営に関する協議を行うこととなります。



## 豆知識：教育学研究科の歴史

秋田大学では、1965年、学芸学部に学芸専攻科教育専攻が設置されました(1988年廃止)。学部卒業後により深い学びをしたい人が学ぶところで、これが教育学研究科のもともとの始まりと言えます。類似したものとして特殊教育特別専攻科が1972年に設置され、2008年に廃止となっています。

1989年によりやうく大学院教育学研究科が設置されます。学校教育専攻と教科教育専攻の2専攻で構成され、さらに教科教育専攻は、各教科教育専修に分かれていました。最初はいくつかの教科だけでしたが、徐々に整備されていきます。2002年に学校教育専攻の中に心理教育実践専修が設置され、臨床心理士受験資格第一種認定を受けます。学校教育専攻は学校教育専修と心理教育実践専修の2専修で構成されることになりました。最終的に、学校教育専攻が13名、教科教育専攻が31名の計44名の入学定員となります。2016年に教職大学院が設置され、教育学研究科は教職大学院にあたる教職実践専攻20名(学校マネジメントコース、カリキュラム・授業開発コース、発達教育・特別支援教育コース)と、心理教育実践専攻6名の2専攻となりました。

全国的に見れば、教員養成系大学・学部で教育学研究科が設置されるのは、東京学芸大学で1966年、大阪教育大学で1968年です。新構想大学として設置された兵庫教育大学に1980年、上越教育大

学に1983年、鳴門教育大学に1984年に学校教育研究科が設置されます。この3研究科は、はじめから全国の現職教員の大学院教育を目的として作られ、定員も300名程度と規模が大きいものでした。

その他多くの教員養成系大学・学部で教育学研究科が置かれるようになるのは1988年からです。教育職員免許法の改正により、大学院修士課程修了者を対象とした専修免許状が創設されたことが大きく関わっています。逆に、神戸、鳥取、福島、山形、富山では、学部が教員養成系ではなくなることで、教育学研究科は別の名称のものに改組されました。

次の大きな変化は2008年から教職大学院がスタートしたことです。国立では北海道、宮城、山形、群馬、東京、静岡、愛知、岐阜、福井、京都、兵庫、鳴門、岡山、福岡、長崎、宮崎で始まり、後に山梨、宇都宮、大阪が加わり、2016年、2017年度でほぼ全国(鳥取を除く)に教職大学院が設置されることとなります。

教員養成系で、博士課程があるのは、東京学芸大学連合学校教育学研究科(1996年、東京、千葉、埼玉、横浜)、兵庫教育大学大学院連合教育学研究科(1996年、兵庫、上越、鳴門、岡山)、愛知教育大学・静岡大学共同大学院(愛知、静岡)です。

## 主な行事予定について

### ○秋田県教員育成協議会(仮)

日時：9月2日(金)

秋田県庁第二庁舎

### ○独立行政法人教員研修センター研修参加

日時：9月5日(月)～9日(金)

内容：学校組織マネジメント指導者養成研修  
宮城教育大学の企画への参加

茨城県つくば市

9月4日に宮城教育大学からバスで教員研修センターに向かい、9日に宮城教育大学で解散  
参加者：現職教員院生4名、引率教員1名

### ○秋田大学3研究科創設記念行事

日時：9月11日(日)

ビューホテル

### ○岩手研修旅行

日時：9月28日(水)～30日(金)

内容：岩手大学教職大学院との交流学習会・情報交換会  
岩手県山田町立船越小学校、大槌町立大槌学園訪問  
大船渡市、陸前高田市視察  
現職教員院生を除いて、マイクロバスで移動

岩手大学  
岩手県山田町・大槌町  
岩手県大船渡市・陸前高田市

参加者：院生1年次学部卒院生8名、現職教員院生4名、2年次学部卒院生5名、引率教員2名



## 4月～8月の行事等について

|           |  |                       |
|-----------|--|-----------------------|
| 4月 6日(水)  | 入学式                                      | 秋田県民会館                |
| 4月 8日(木)  | 新入生ガイダンス                                 | 3号館343教室              |
| 4月11日(月)  | 授業開始                                     |                       |
| 4月19日(火)  | 第1回教職実践専攻会議・第1回省察実習部会会議                  |                       |
| 4月20日(水)  | 第2回教職実践専攻会議(メール会議)                       |                       |
| 4月21日(木)  | 第1回研究科委員会                                |                       |
| 4月21日・22日 | 全県指導主事等連絡協議会(現職教員院生が参加)                  | 秋田県総合教育センター<br>大学会館2階 |
| 4月27日(水)  | 歓迎レセプション                                 |                       |
| 4月28日(木)  | 第3回教職実践専攻会議                              |                       |
| 5月 3日(火)  | 第4回教職実践専攻会議(メール会議)                       |                       |
| 5月11日(水)  | 秋田魁新聞記者 授業取材                             |                       |
| 5月18日(水)  | 第5回教職実践専攻会議(メール会議)                       |                       |
| 5月19日(木)  | 第2回研究科委員会                                |                       |
| 5月20日(金)  | 日本教職大学院協会総会                              | 学術総合センター(東京)          |
| 6月 6日(月)  | 第6回教職実践専攻会議                              |                       |
| 6月16日(木)  | 第3回研究科委員会                                |                       |
| 7月 8日(金)  | 教師力向上協議会教職大学院部会・省察実習専門部会第1回合同会議<br>情報交換会 | 第一会議室<br>大学会館2階       |
| 7月13日(水)  | リーフレットのための写真撮影                           | 3号館315教室              |
| 7月21日(木)  | 第4回研究科委員会                                |                       |
| 8月 1日(月)  | 教職大学院納涼会                                 | 大学会館1階                |
| 8月 3日(水)  | 教育学研究科リーフレット完成・納品                        |                       |
| 8月 6日(土)  | 教育学研究科説明会                                | 3号館254教室              |
| 8月26日(金)  | 東北地区教育委員会と大学の意見交換会                       | カレッジプラザ               |

